社会貢献フォーラム　今、あらためて『教育』を考える

講演　「日本人の知の遺産」　作家・童門　冬二氏

「恕」の精神教えた閑谷学校

岡山県の知の遺産・閑谷学校は、江戸の寛文10（1670）年に開校。わが国初期の藩校といってよい。なぜ、岡山藩主・池田光政が同校を設けたのか。これは、ずばり、武士の意識改革による藩の行政改革と産業振興を目指したから。藩財政は、10割自治であったため、経済活動は重要だった。戦国の世から脱皮を図る際に、家臣の求心力を保つには、藩校における人材の育成が不可欠だと考えたの老として、出色の出世で登用された熊沢蕃山は「孝」や「知行合一」を説く陽明学者・中江藤樹に強く影響を受ける。中江の思想は「人間は、心に人の悲しみや苦しみを理解する鏡を持たなければならない。そして、その鏡を持していると、私は解釈している。これは、他人を許し、他人の立場に立つ、優しさの意、愛民の意識を持ち、護民官意識を高め、経済にも強い武士になってほしいと考えた。その場に立つ、優しさの意、愛民の意識を持ち、護民官意識を高め、経済にも強い武士になってほしいと考えた。そのために、岡山藩の〝C（企業イメージ確立戦略）〟「岡山スピリット」を生んでいこうとする。この精神の発揮により、シンボルは、狙い通りの成果を挙げ、信地を閑谷学校に求めたのだ。幕末に備中松山藩の藩政改革をなしとげた山田方谷も、閑谷学校の整備・拡充を手掛けた。閑谷学校の精神や信地として、その名は全国、そして世界に知れ渡るようになり、その存在意義は非常に重要だ。こうした経緯からも、閑谷学校が一日も早く世界遺産に登録されるとさらに輝きが増すと考える。

儒教の生きるプロセスである「修身（自分自身を高める）」「斉家（家庭を整える）」「治国（藩や県の安定）」「平天下（国の平和）」に注目している。「斉家」と「治国」の間に「地域自治」が入ると考える。さまざまな課題がある現在の教育を考えるに当たり、この儒教の生きるプロセスとともに、閑谷学校の教育の柱となった「恕」の精神そして、「忍びざるの心」を今こそ、現代の教育にいかすことができるのではないか。

どうもん・ふゆじ　1927年生まれ。東京都政策室長などを歴任。退職後、作家活動に。第43回芥川賞候補。「小説上杉鷹山（上・下）」「山田方谷」など著書多数。

「恕」の精神教えた閑谷学校

論語の「恕（じょ）」の精神そのものだ。

光政は、岡山城の家臣に、「恕」の精神を誇り、シンボルは、狙い通りの成果を挙げ、

パネルディスカッション　家庭・地域で子どもを支えよう

社会貢献フォーラム「今、あらためて『教育』を考える～家庭・地域が支える子どもの教育」（全日本社会貢献団体機構、山陽新聞社、全国地方新聞社連合会主催）が2月13日、岡山市北区柳町の山陽新聞さん太ホールで開かれた。作家童門冬二氏の講演とパネルディスカッションがあり、各分野の専門家から青少年活動や教育支援について貴重な意見、提言があった。市民ら約300人が熱心に聞き入った。（文中敬称略）

パネリスト

（順不同）

立命館大教授　陰山　英男氏

スポーツコメンテーター　奥野　史子氏

岡山県遊技業協同組合理事長　松村　高男氏

山陽新聞社論説委員　影山　美幸氏

44年間青少年を支援　松村

松田　学力低下など問題が指摘されるが、子どもたちを豊かに育てるためには、教育支援や青少年の健全育成支援は欠かせない。

松村　岡山県遊技業協同組合は昭和40年に、財団法人岡山県青少年育成協会（現・岡山県青少年財団）を設立し、県内で青少年の非行防止や健全育成、青少年の文化活動に取り組んでいる団体への補助金や助成金の交付、個人や団体の顕彰を行っている。44年間の寄付金総額は県内各支部の協力も含め2億円を上回る。

松田　支援活動への思いやこれまでを振り返ってどう感じているのか。

松村　44年の長きにわたって続けてこられたのは、組合員が支援活動の重要性を理解してくれた賜物（たまもの）。青少年の健全育成は、大人に課せられた義務と理解しており、今後も続けていきたいと思う。

［昨年の主な補助金活用事例］▽岡山県少年を守る母の会連合会の青少年のインターネット被害防止のための寸劇▽岡山県青少年育成県民会議の少年の主張岡山県大会▽岡山市青少年育成協議会の岡山市小・中学生将棋大会▽社会を明るくする運動実施委員会のパレードと小中学生作文コンテスト▽岡山県子ども会連合会の岡山県子ども大会▽岡山県立成徳学校後援会のドラム購入費▽坪田譲治を顕彰する会・子どもの館の読み聞かせなど▽岡山県レクリエーション協会のスポーツチャンバラ、ダブルタッチ―など20数団体

松田　山陽新聞社はNIE（教育に新聞を）活動の一環として、出前授業などで教育支援している。

人との「出会い」が大切　奥野

松田　国際化のうねりの中で、社会貢献活動の方向性は変化するのか。

松村　県内には外国人労働者の子どもたちも増えている。今後はさまざまな国の子どもたちの教育もしっかりと支援していかねばならないと考える。われわれ組合も私自身も一層、活動の輪を広げていきたい。

陰山　国際化に逆行するようだが、日本人学生の留学希望者が減ってきている。子どもたちは、自信がないという。子どもが自信をつけるときは、失敗を克服したとき。失敗をする自由が与えられ、失敗から立ち直るチャンスが与えられていなければならない。子どもは、案外しかられたいと思っている。大人が子どもの求めているものを錯覚している。

松田　社会貢献活動は、教育の分野で今後も、ますます期待されていくのか。

陰山　私自身も、子どもたちの放課後活動を支援する学生のNPOを組織している。活動を通して、学生は、組織作りがうまく、礼儀正しいなどとてつもない力を発揮することに気付く。

影山　不登校経験者を取材した時、「学校に行っていない子どもでなく、一人の人間として雑談をしてほしかった」という言葉が心に残った。今の子どもが抱える息苦しさは例えば成績など一つの価値観だけで判断されることにある。大人がいろいろな生き方を見せ、子どももいろいろな顔を見せられる社会を取り戻していきたい。

松村　われわれの社会貢献活動が、子どもたちばかりでなく大人にも影響を与えていることを実感し、支援活動の意義を再確認した。組合員一人ひとりが、社会貢献活動に使命感を持って取り組んでおり、継続していくことが重要であると考える。

奥野　若い母親は核家族化で周りの支えが必要でも、「助けてほしい」と甘えることが下手。地域でぜひ若い母親に声をかけてほしいし、支え合うシステムがあるといい。

松田　家庭や地域でも他人をどれだけ支えているのか、また他人から支えられているのかを意識したい。できることを行動に移すことがスタートになる。もっとコミュニケーションを深めていくことが大事ではないか。

憧れが原動力となる　陰山

影山　10年ぐらい前から、学校に記者を派遣し出前授業をしている。NIEでは2点を意識している。情報過多の中、情報を読み解く力（メディアリテラシー）の養成と、子どもたちにいろいろな大人の存在や生き方に気付かせることだ。杉並区立和田中校長を務めた藤原和博氏は、教育に求められる関係として「斜めの関係」を挙げる。教師は、社会に斜めの関係をつくっていくことだと思う。

奥野　夫（陸上の朝原選手）やバレーボールの柳本監督らと近く、「アスリート・ネットワーク」を立ち上げる。オリンピック選手は目標を目指す過程でさまざまな人との出会いを経験する。私にとっては厳しい指導で有名なシンクロの井村監督や、諸外国の一流選手の演技などだ。こうした出会いが、変化をもたらし、オリンピックへと導いた。今度は私たちが出会いをつくりたい。

松田　人との出会いがオリンピック選手を育てた。そんな機会をつくっていくことも、大人の役割だろう。

「斜めの関係」作ろう　影山

陰山　子どもは可能性を秘めている。小さいうちは、種をまいておくことが大切だ。大人物との出会いもあるが、日常の中での何気ない出会いも重要だ。憧れが原動力となる。大人は積極的にいろいろと提案してあげることが務めだと考える。

影山　最近は学校支援ボランティアで活躍する大人も多いが、とても生き生きしている。そんな大人との出会いで子どもの目は輝く。同時に、大人の生き方を見抜くような子どもの目に接して、大人も自らを振り返り成長できる気がする。

奥野　子どもたちと子どもの縦の関係、友だち同士の横の関係に対して、斜めの関係は評価や強要がない。社会貢献活動というのは、日本人の元気の源。子どもたちの学力の問題は実は、大人のライフスタイルの問題だったことを提起したい。

できることを行動に　松田

基調報告　立命館大教授　陰山　英男氏

○家族と地域

核家族化が年々進展し、親子、きょうだい間の殺人・傷害事件が後を絶たない。職場や親戚、地域とのつながりがき薄になる中、家族のつながりは、現代の命綱だと言える。

○現代日本の社会

日本の夜型社会の進展が問題。ビジネスマンの帰宅時間の遅さは随一。日本人の働き方は異常。食卓の話題の中心に父親の存在はない。年々増えるうつ病は、女性のほうが男性より多く、40代の男性や60～70代の女性に多くみられる。

○生活習慣と学力

日本の教育は昭和56年に大きな転換を遂げた。この年に校内暴力、テレビゲームの発売、インベーダーゲーム人気などが始まった。生活習慣の変化が、子どもたちの脳にどんな影響を与えたのだろうか。睡眠時間が短い子どもは、学力が伸びない。20～21時に寝る子が最もいい成績を取るが、遅くなるにつれて、成績も低下する。生活習慣に影響を受ける知能指数も同様だ。

食育の面では1回の食事に使う食品数が多いほど、成績が高く、200㍍走も速くなる。朝食を毎日食べないと、知能指数は10ポイントも落ちる。国が早寝・早起き、朝ごはんを推奨している理由で、朝食の内容改善と摂取で、子どもの成績は格段に改善されることが救いだ。生活習慣は、日本人の元気の源。子どもたちの学力の問題は実は、大人のライフスタイルの問題だったことを提起したい。

コーディネーター　東京農大客員教授　松田　輝雄氏

全日本社会貢献団体機構は
未来に向けて平和で住みよい
社会づくりをめざしています。

全日本社会貢献団体機構は、全日本遊技事業協同組合連合会（全日遊連）が母体となり、2005年12月に設立された任意団体で、塩川正十郎元財務大臣を会長に、学識経験者、文化人、政財界関係者が参加し、平和で住みよい社会づくりに貢献する事業への助成や社会貢献活動の顕彰を主な活動としています。

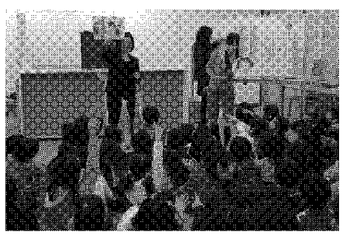
私たちは、社会に役立ち必要とされる研究や事業、活動をサポート・応援しています。

助成事業

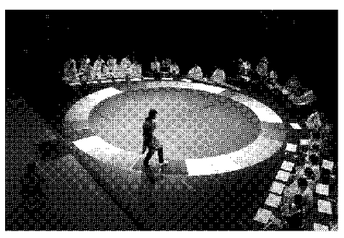
今日の社会に最も必要とされる研究や事業に助成する活動は当機構の設立趣旨の根幹であり、中心事業です。**1. 学術・文化の振興、2. 命を大切にする研究・活動、3. 子どもの健全育成に関する事業**を中心とした3つの分野において最も社会が必要としている事業を選び助成を行っております。

◆平成21年度助成事業（実績の一例）

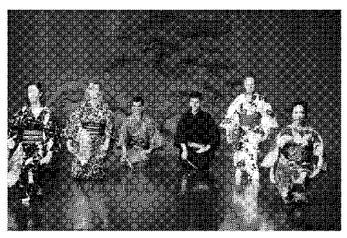
1.「紙芝居による『心の教育』プロジェクト」事業（社団法人「小さな親切」運動本部）
2.「コンサート　ジェネシス（始原）Ⅳ」事業（京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター）
3.「ITI伝統芸能ワークショップvol.21≪狂言≫」事業（社団法人 国際演劇協会）



1.「紙芝居による「心の教育」プロジェクト」事業



2.「コンサート　ジェネシス（始原）Ⅳ」事業



3.「ITI伝統芸能ワークショップvol.21≪狂言≫」事業

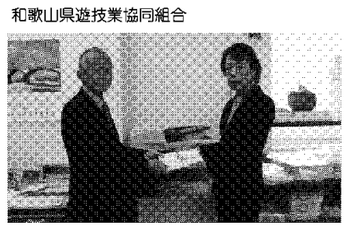
顕彰事業

会員の社会貢献活動を顕彰し、今後一層の活動を期待して、年間で最も優れた社会貢献活動に「社会貢献大賞」を授与することとし、平成17年から実施しております。

第2回　社会貢献大賞
「パチンコ大衆文化福祉応援賞の贈呈」事業
愛知県遊技業協同組合

第3回　社会貢献大賞
「在阪外国人留学生に対する奨学金の支給等支援」事業
大阪府遊技業協同組合

第4回　社会貢献大賞
「福祉関係施設への備品等寄贈」事業
和歌山県遊技業協同組合



全日本社会貢献団体機構　TEL.03-5227-1047 http://www.ajosc.org